

「卒業まであと六日」。教室の「卒業カレンダー」を一枚、また一枚とめくるたび、中学校生活の終わりが近づきます。何気ない日常に刻まれた、数え切れない思い出をかみしめながら、私達は「今日」という一日を大切に過ごしてきました。「また来週。」そう言つて、いつものように笑つて帰るはずでした。まさか、中学校生活の最後の一週間が、突然なくなると思つてもみませんでした。

金曜日、先生方は「大丈夫。今まで通り落ち着いて過ごさない。」と明るく声を掛けてくださいました。それでも、家に帰ると、不安でした。目の前に迫る高校入試。卒業式はどうなるのだろう。日々状況が変化する中で、じつと現実と向き合うしかありませんでした。しかし、入試の前日、学校のホームペーjで、先生方の応援メッセージを見て、勇気をもらい、一人一人が目標達成に向けて力を尽くすことができました。

そして、今日、こうして卒業式ができたことを、大変嬉しく思います。

三年前。私達の中学校生活はこの体育館から始まりました。入学式での、先輩方の迫力あるエールに、背中を強く押されたことを今でも覚えています。

目標に向かって打ち込んだ部活動は、私達を大きく成長させてくれました。勝利の喜びを分かち合った瞬間。悔しさに泣き崩れたあの時。苦しい練習の日々を共に乗り越え、励まし合った仲間が存在を決して忘れません。部活動は、私達に、努力の尊さと、喜びや悲しみを分かち合う素晴らしさを教えてくれました。

心待ちにしていた修学旅行は、知らない街を歩く不安もありましたが、校外での学習を通して、友達のよさを再発見することができ、とても楽しい三日間でした。

運動会、文化祭と、大切な思い出が増えるたび、私達の絆は、強く、固く結ばれてきました。一つの行事を創り上げる過程には、様々な困難がありました。悩んで、立ち止まりそうになったこともあり。そのたびに、私達は話し合い、思いを共有することで、達成感と感動を味わうことができました。

在校生の皆さん。直接伝えることはできませんでしたが、今まで様々な場面で、私達を支えてくれてありがとう。おかげで充実した日々を送ることができました。皆さんに、階中の三大伝統を託します。自分達も、地域の方々も、みんなが笑顔になれる学校にしてほしいと願っています。

私達は、階上中学校での防災学習を通して、改めて、命の大切さを実感しました。当時、幼かった私達の記憶は、曖昧で不確かなものでした。しかし、地域の方々からアンケートをとったり、話をきいたりする中で、あの大地震がどれほど多くのものを奪っていったのかを知り、言葉に表せない悲しみを覚えめました。同時に、この悲劇を繰り返さないために、私達の経験や学びを「語り継ぐこと」が大切だと強く思つたのです。私達の防災学習はこれからも続きます。震災を学び、感じた思いを発信し、多くの人と交流しながら、自分にでき

ることを探し続けます。一人ではできないことも、仲間と一緒にならば、何倍も力が発揮できることを、私達は身をもって体験しました。将来、この仲間とともに、地域のために尽くすことができる大人になりたいです。

いつも一番近くで支えてくれた家族の皆さん。わがままを言って、たくさん迷惑をかけました。けんかもしました。でも、日々、家族の愛情に包まれて生活していることを私達は知っています。今日まで大切に育ててくれてありがとうございます。心から愛してくれてありがとうございます。これからも、少しずつ大人になる私達の側で、頑張る姿を見守っていてください。

三年間お世話になった先生方。今日は、私達の卒業式のために、たくさん準備をしていただき、ありがとうございました。先生方は、苦難にあってもあきらめずに前を向く強さと、相手を思いやる優しさを、私達に教えてくださいました。

長いようで短かった三年間。当たり前の日常。いつも側にいた友達。辛い時、悩んでいる時、さり気なく掛けてくれた言葉に何度も助けられました。今日を境に、それぞれの道を歩き出しますが、私達はこれからもずっと仲間です。

私達が進む未来には、固く閉ざされた扉もあるでしょう。でも、私達は心の中に、扉を開ける鍵をもっています。どんな時でも笑顔を忘れず、一歩ずつ歩みを進めます。そして、自分自身の手で、可能性の扉を開いていきます。私達は、この地より羽ばたきます。

終わりに、これまで私達を大切に育んでくださった全ての方々に感謝し、大好きな階上中学校の更なる発展を心よりお祈りして、答辞といたします。

令和二年三月七日 卒業生代表 鈴木 藍琉